九品仏

別府公民館　木村正衛

西別府安楽寺境内の西に堂宇があり、その中に見事な阿弥陀像が並んで安置されています。九品仏堂の由来については、養老元年（717）今から千三百年前大化の改新に功績のあった、藤原鎌足の御子藤原不比等淡海公が創立したもっとも古き仏教道場であると記されています。

当時は、釈迦阿弥陀薬師の三尊でしたが、平安時代の後期にこの地方に居城を構えた別府次郎行降が、さらに六体の阿弥陀仏を造立し、九品の弥陀にして崇敬したと伝えられています。伝えにある九品仏は、荒廃かまたは焼失して今はなく、現存する九品仏は、江戸中期の元文年間に三ヶ年の歳月をかけて完成したと記録が残されています。

浄土教では、極楽（西方浄土）に九の座があるといいます。

人は生前の生活態度や行動や信仰の深さによって、それぞれの座に分けられると教えられ、そして阿弥陀仏が居られて守ってくださると説きました。

阿弥陀仏は、指の結び方や手の置き方によって、上品上生から下品下生まで九種類に分かれています。指は必ず親指と他の指でつないでいます。

（熊谷市公協だより　第 29 号　平成 10 年より）